

地元の歴史を知ること地元がもっと好きになる

今年度から始めた岡崎研究会。毎月一回、参加者の中の方から話題提供していただき、話題提供の後で、語り合うという進め方をしています。今回は、「岡崎研究会」という名にふさわしく、岡崎の明治以降の歴史を写真つきでご紹介してくださいました。

☆国有鉄道の駅ができてから

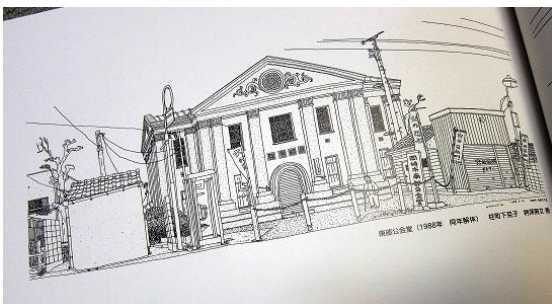
岡崎に長く住んでいるのに、初めての情報が満載で懐かしく楽しい研究会でした。

- ・ JR 岡崎駅（旧国鉄）ができた明治 21 年（1888 年）に岡崎村ができ、岡崎城のある方面は岡崎町で別の自治体であったこと
- ・ 岡崎町が汽車の煙を忌避したことで駅は現在の場所に設置されたというのが通説であったのですが、実は、当時の技術では乗り越えられない急こう配がルート上にあったことが有力説であること
- ・ 駅ができてからの岡崎村の発展の写真資料などたくさん教えていただきました。

☆まちにはまちの歴史がある

一つのまちの近代の歴史をたどるといっても、もちろん興味深いことです。そこには、時代の波に乗ろうとする地方自治体の努力や、人々の暮らしが見えてきます。ましてや、それが自分の生まれ育った町の話であれば、なおさらです。

幼い子頃の記憶をたどり、断片的な記憶がつながっていきました。その中で、地域アイデンティティが湧き上がってくるのを感じました。これは、地域を自分のコト、モノにしていくために、大切な作業なのではないかと思いました。



（岡崎村が岡崎市に編入される交換条件として建造したのが、南部公会堂なのだから）



（こ南部公会堂の面影は、こんなところにありました。歴史はつながっているんですね。写真は、シビックセンターホームページより）

☆歴史を知ると自分の存在が見える？

今回の研究会で、土地と時間はつながっていて、そこに自分や家族、まちの人々がいるのだ、そんなことを感じました。

☆自分の存在を認められると生きる意味が見えてくると言います。たくさんの方が感じてくださると嬉しいです。このような機会を与えてくださったみなさまに感謝しています。